

令和元年12月17日
(2019年)

保護者の皆さま

吹田市立岸部第二小学校
校長 矢田 俊也

令和元年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和元年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査結果の分析

国語

●概要

◎児童の平均正答率は、全国値をやや下回っている。

◎正答率の分布は、全14問中正答数11問の値が一番高く、次いで10問、3番目が7問・8問・9問となっている。

●各領域における成果と課題

「話すこと・聞くこと」

◆「目的に応じて、質問を工夫する」は、課題がある。

◆「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる」は課題がある。

「書くこと」

◇「情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える」は、全国値を上回る。

◆「目的や意図に応じて、自分の考えや理由を明確にし、まとめて書く」は、課題がある。

「読むこと」

◇「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む」は、全国値を上回る。

◆「目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む」は、課題がある。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

◇「漢字を文章の中で正しく使う」は、全国値を上回る。

◆「意味のつながりを考えながら接続語を使って書く」は、課題がある。

●国語における成果と今後の指導改善点について

今回、「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、全国値とほぼ同じでしたが、「話すこと・聞くこと」では、全国値を下回り課題がありました。

本校では、「努力目標」を「言語力の育成」として、取り組んでおります。国語科を中心に「言語力の育成」に取り組むことで、基礎・基本の力を伸ばし、それを活用する力を高めていきたいと考えております。

「文の中で漢字を正しく使う」「自分の考えを明確にしながらか読む」項目は全国値を大きく上回り、基礎・基本の力が身に付いていると考えられます。今後は、授業の中での話し合い活動を積極的に取り入れ、児童が主体的に学習に取り組む言語環境作りを進めながら、課題を改善していきます。

算 数

●概要

◎児童の平均正答率は、全国値とほぼ同じ。

◎正答率の分布は、全14問中正答数9問・10問の値が一番高く、次いで11問・12問、3番目が13問となっている。

●各領域における成果と課題

「数と計算」

◇「グラフから何倍を求める」や「複数の数量から立式する」も全国値を上回り良好である。

◆「加法と除法が混じった整数と少数の計算」では、課題がある。

「量と測定」

◇「資料を関連付けて判断し説明する」は、全国値を上回る。

◆「単位量当たりの大きさを基に計算し判断する」では、課題がある。

「図形」

◇「図形の構成要素から他の図形を作る」は、全国値を上回り良好である。

◆「台形についての理解」は、全国値をやや下回る。

「数量関係」

◇「伴って変わる二つの量」の設問では、全国値を上回り良好である。

◆「除法の式の意味を理解している」は、課題がある。

●算数における成果と今後の指導改善点について

全14問中8問が全国値を上回る結果となりました。領域別に観ても「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4領域において、全国値とほぼ同じ値であり、基本の力が身に付いていると考えられます。3年生から「少人数及び習熟度別指導」で個に応じた指導を行い、「朝学習」や「パワーアップタイム」で基礎・基本の育成に取り組んできた結果と考えます。

しかし、「加法と除法が混じった整数と少数の計算」「除法の式の意味を理解している」等、複雑な設問には課題があり、今後は算数的活動をより多く取り入れることで、活用する力を高めていくことが必要であると考えます。また、「努力目標」で取り組んでいる「言語力の育成」も知識の活用に効果的であると考えます。これまでの成果を継承し、引き続き、基礎・基本の力を伸ばし、活用する力を高めていきたいと考えます。

2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

「生活習慣や学習環境等に関する調査」は、生活習慣、家庭学習、学校生活と多岐に渡るものですが、以下に、特徴的なものを挙げておきます。

『自己肯定感・自信』

- ◇「自分には、よいところがある」は、全国値とほぼ同じである。
- ◆「将来の夢や目標を持っていますか」は、全国を下回っている。

『学校・学級での活動』

- ◇「学校に行くのは楽しい楽しいと思いますか」は、全国値とほぼ同じである。
- ◇「学級生活をより良くするために学級会で話し合い、解決方法を決めている」は、全国値を上回っている。

『規範意識』

- ◇「いじめは、どんな理由があってもいけないこと」は全国とほぼ同じである。
- ◆「学校のきまりを守る」は、全国値を下回っている。

『授業』

- ◇「目標の明示」や「振り返り活動」、「話し合う活動」や「課題解決学習」や「考えを発表する機会」等は、全国値とほぼ同じである。
- ◆「先生は自分の良いところを認めてくれている」は、全国値を上回っている。

『家庭学習』

- ◇「2時間以上勉強する児童」は、全国値を上回っている。
- ◆「家で、計画を立てて勉強する」は、全国値を下回っている。

『規則正しい生活習慣』

- ◆ 起きる時刻、寝る時刻ともに、定まっている児童が全国値を下回っている。

『家庭の関わり』

- ◆「家の人と学校での出来事について話す」は、全国値を下回っている。

『地域・社会への関心』

- ◆ 「地域や社会の問題や出来事への関心」は、全国値を下回っている。
- ◆ 「住んでいる地域の行事に参加している」は、全国値を下回っている。

『読書』

- ◆ 「読書は好き」、「読書時間」は、全国値を下回っている。
- ◆ 「図書館や図書室の活用」は、全国値を下回っている。

3. 今後の取り組み

本校では、「努力目標」を、「言語力の育成」とし、今年で5年目となります。今年度は＜自分の思いを伝え合える子どもを目指して＞をサブテーマにして、国語科を通して、全学年で、研究授業・討議・研修会や、研究発表会を行っています。また朝学習の時間では、算数・国語・外国語の基礎・基本学習と読書や読み聞かせを全学年で取り組んでいます。算数においては、4年生以上の学年で「**少人数及び習熟度別の指導やチームティーチング**」を行い、更に毎月実施の「**パワーアップタイム**」の時間で、基礎的な力を育てています。又、今年度からは「授業改善加配担当教員」が大阪府から配置され、3年生以上の国語科を中心に「話し合い活動を充実させた授業づくり」に取り組んでいます。日頃からのご家庭でのご協力も頂きながら、上記の取組の成果として、少しずつ良好な結果を得ることができておりますが、国語、算数ともに一部で課題が明らかになり、改善に向けた取組を引き続き行う必要性があることを再確認いたしました。

学習の基礎となる「**知識**」については、「**漢字・計算**」を中心として、個に応じた指導のさらなる充実を図り、確かな意味理解を確実に定着するよう指導に努めていく必要があります。そのためには、学校での学習のみならず、家庭学習の担うところが大きく、宿題に加えて**予習・復習の充実**を図るなど、家庭と学校が連携し、自学自習力をつける取組の推進を進めていきます。

又、「**読解力、判断力、思考力、表現力**」といった「**総合的な力**」は、全教科・学校生活や日常生活全般を通じて身に付けるものであり、各学年で取り組んでいる「言語力の育成」を中心にして、今後も、学力向上につながる主体的・対話的で深い学びができるよう、取組の充実を図っていきます。

今後とも、温かいご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

<<参考資料>>

国立教育政策研究所「令和元年度 全国学力・学習状況調査 報告書・調査結果資料」
<http://www.nier.go.jp/kaiatsu/zenkokugakuryoku.html>